

秋まき野菜について

<栽培管理上のポイント>



(1) ハクサイ

● 播種 ■ 収穫

作型	播種時期	8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
晩生	9/1~ 9/15				●	●								■					■

★土づくり

- ・ハクサイは細い根が多く発生し、広く深く広がる。
そのため、**土壌団粒構造を形成し、排水性が良く、耕土を深くすること**で、根が広範囲に広がり、耐病性・耐倒伏に優れたハクサイに仕上がる。
- ・センチュウ・根こぶ病対策として定植時に粒剤を。

★直播

- ・**降雨後の圃場全体がほどよく湿った状態**が良い。
- ・播種後は芽が出るまでは2回ほどかん水を。（水分状況確認）
- ・発芽後は少量多かん水で過湿・過乾燥を防ぐ。

★育苗

- ・葉色が黄色くなる場合は液肥を散布する。濃度は窒素成分で10%のものなら2000倍程度。
- ・育苗期間は20日程度で、**本葉3~4枚程度を定植**する。

★追肥・土寄せ

- ・追肥は2回程度行う。
- ・1・2回目共に、磷硝安加里S646等を反当10~20kg施用し、中耕・土寄せする。
- ・1回目の追肥は本葉5~6枚頃の株間に、**2回目の追肥は結球開始前に畦間に行く。**



(2) ほうれん草 ○ 播種 ■ 収穫

品目／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほうれん草	■	■							○—○	○		■

★土づくり

- ・ 酸性土壌に弱いので、pH6～7に調整する。
(播種2週間以上前に苦土石灰100～150g/㎡程度)
- ・ 播種1ヶ月～2週間前に完熟堆肥2kg/㎡、播種1週間前に化成肥料100～150g/㎡程度入れる。
- ・ 畝の高さは5cmほど。(排水不良地では15cm程とする)

★種まき

- ・ 1～2cm間隔で播種後、約1cmの厚さに覆土する。
- ・ 発芽までは、地面が乾かないように水やりをする。
- ・ 9月に播種を行う場合は、一晩水につけてから播くと発芽がよくなります。

★間引きと追肥

- ・ 本葉2枚の時から2回に分けて間引きする。
(最終的に6cm間隔になるように)
- ・ 2回目の間引きの時に追肥(化成肥料 5g/㎡)を行う。

★収穫

- ・ 草丈が20cm以上になった株から順次収穫していく。
- ・ 品種によってはトウ立ちすることもあるので、早めの収穫を心掛ける。

※9～10月のべと病が発生する時期は曇天時のかん水は避ける！

(3) さやえんどう ※資料末尾に農薬登録についての注意記載あり

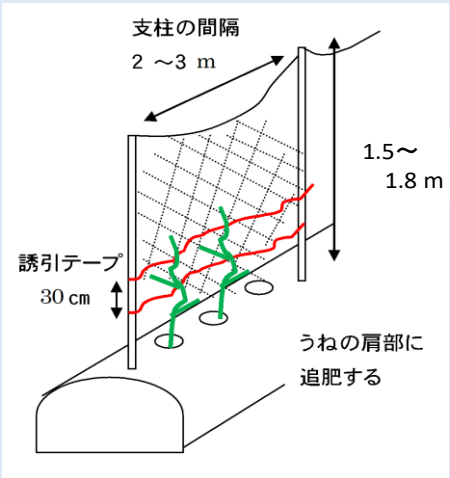
月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作型	○ 播種			△ 間引き			— 収穫																	
病害虫																								

★播種

- 播種の10～15日前には元肥を全面施用しておく。
- 発芽適温18～20℃。
- 株間約40cm、深さ2～3cm、1条植え。1穴に3～4粒程度播種し、覆土する。
- 2cmくらい覆土し、上をもみからや切りわらで覆うとよい。

★一般管理

- 開花直前（3月中旬頃）と、初出荷予定日直前（4月下旬頃）には、草勢を高めて収量を増加させるため、尿素入りI B化成4号を追肥する。
- 本葉2～3枚の時点で、間引き、2本仕立てとする。
- 誘引は、条間に杭を3mおきに立て、ネットを張り、草丈が10cm位になったら、2～3m間隔で2mの支柱を立て、きゅうりネットを張り巻きひげをからませる。
- 草丈の生長に合わせてネットの両側にビニールテープを張る。
- 整枝は、親づる、子づるは伸ばし、孫づるは摘む。
- 収穫は、開花後約15日、莢長約7cm程度で収穫できる。



(4) ブロッコリー

○ 播種 × 定植 ■ 頂芽収穫 ■ 側芽収穫

品目/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ブロッコリー		■	■						○	×		

★定植時

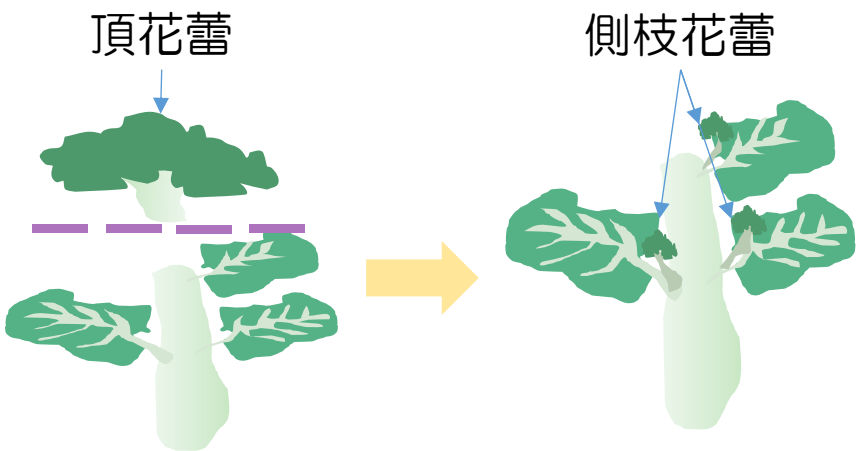
- ・ 株間 35～40cm(2条植)、畦幅120cm
- ・ 活着促進のため、灌水を行う。

★追肥と灌水

- ・ 1回目追肥：定植後10～15日目
- 2回目追肥：花蕾がピンポン玉大になった頃
- 3回目追肥：頂花蕾収穫後（側花蕾を肥大）
- ・ 追肥後、倒伏防止のため中耕・除草をかねて、土寄せを行う。
- ・ 12～3月冬季の乾燥は肥効が現れにくいため、極端な乾燥時には灌水を行う。土壌水分が多すぎると生育が著しく悪くなるため注意。

★収穫

- ・ 収穫適期は、花粒がゴマ粒大～ムシピンの頭大のタイミング。
- ・ 病虫害防除について、軟腐病、菌核病の予防散布を行う。



頂花蕾収穫後に、側枝花蕾は順次生育する。

<病害虫対策>

(1) 連作に注意

- 野菜の連作は土壌伝染性の病害の発生を助長する。
→ 他の科の野菜との輪作を心掛ける。
(例 ダイコン→エンドウ→ナス→ほうれん草)
- 健全な土壌を維持することで病害の発生は抑えることが可能。
→ 有機物や石灰資材の施用を適正に行う。
→ 栽培開始前に 土壌診断を行い、適正施肥をすること！

(2) 害虫の多発に注意

- 防虫ネットや不織布 (ベタがけ資材) などのトンネルがけが有効。
→ 害虫の侵入を防ぐため、すき間ができないようにする。
- 除草の徹底をする。
(害虫は圃場周辺の雑草に潜んでいる。)

早期に発見し、対処することで
被害を最小限に防ぎます。

除草が重要です！！



1. ラベルの確認

使い慣れた農薬でも必ずラベルを確認して使用しましょう！

2. 飛散防止

周辺作物への飛散防止に努めましょう！

※風向きや散布圧力を上げすぎないように注意



3. 正確な記帳

農薬の使用履歴を正確に記帳しましょう！

※記帳したものは一定期間保管しましょう。

残留農薬が出てしまうと、道の駅及び産地の信頼に関わってきます。
特に正確な記帳はご自身を守ることに繋がります。

(証拠として提示出来るように)

農薬散布の際は上記の3か条を必ず守ってください！

※ややこしい、さやいんげんとさやえんどうの農薬登録の見方表

ラベルの作物名	皆さんが栽培している作物名			
	アメリカ	すじなし	きぬさや	スナッブ
さやいんげん	○	○	×	×
さやえんどう	×	×	○	○
いんげんまめ	×	×	×	×
えんどうまめ	×	×	×	×
実えんどう	×	×	×	×
豆類(未成熟)	○	○	○	○
豆類(未成熟、ただしさやいんげんを除く)	×	×	○	○
豆類(未成熟、ただしさやえんどうを除く)	○	○	×	×
豆類(未成熟、ただしさやいんげん、さやえんどうを除く)	×	×	×	×
豆類(種実)	×	×	×	×
野菜類	○	○	○	○